

私がなぜ現在の科目を選んだか

「消化器内科」

信州大学医学部内科学第二教室

奥村太規

大学入学後、基礎医学を学び始めると、早く臨床医学を学びたいと思い、臨床の授業が始まると、早く現場を体験したいと思っていました。しかし、いざ臨床実習が始まると、内科的な診察も、外科的な手術もとても自分にできるようになる気はせず、医療者として必要なコミュニケーション能力や人間性も身に付けられると思いませんでした。「これは向いてないな。」と思い、卒後はクエバンとか病みえでも作ろうかなと思っていました。それでも卒後は初期研修はとりあえず終了しておいた方がよいだろうと考え、初期研修を行うこととしました。とにかく臨床医になるのが恐ろしすぎて、医師国家試験終了後も試験前と同じかそれ以上の勉強をして医学的知識を詰め込んでいました。晴れて初期研修を開始すると、ストレスフルな部分はあったものの、例え common disease でも自分の診察

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科」

信州大学医学部脳神経外科学教室

北村 聡

脳神経外科を志したきっかけは、親族が脳神経外科疾患で闘病したことにあります。脳神経外科疾患の経過は厳しいことが多く、患者・家族の負担は大きいです。自分が脳神経外科になれば、患者・家族により寄り添えるのではと考え、脳神経外科への興味を持ち始めました。

熱い気持ちを持って信州大学脳神経外科に入局しました。しかしながら、現実には厳しいものが多く、悩んだ末に一度脳神経外科を離れています。今となっては、この一度脳神経外科を離れた経験が自分の現在の価値基準に大きく寄与しています。脳神経外科から離れて、改めて自分の理想像、脳神経外科の理想像を考えることができました。なりたい自分と、それに向けて頑張らなければいけない自分と、これまでの自分の甘さを、

で診断をし、自分の治療方針で患者さんが回復していく過程を経験し、少しばかりやりがいを感じる日々でありました。医師になって最初にローテーションしたのが消化器内科で、その時の指導医に誘われるまま、このような自分でも求められるのであればと内視鏡や超音波はほぼ未経験のままでしたが消化器内科を選びました。なんだかんだ目の前の患者さんを診察することを一例一例重ねていると、このような私でも何とかかんとか内科ができるようになってきました（と思いたいです）。とりあえず、社会人としてなんとかやっけていけなくはないな、と思えると、今度は欲が出てくるもので、日常臨床において現在の医学レベルではどうしても助けることのできない患者さんを助けたくなってきました。これは臨床だけやってもなんともならんなどと考え、周囲より1年早く医師5年目に大学院へ入学、6年目になった2021年の春から肝臓内科として大学へ帰局しています。小さなことでも英語論文を数打って世に発信していけたらと思います。それを重ねていつか大きなことができるようになることを夢見しています。（信大平28年卒）

考えることができました。脳神経外科の酸いも甘いも知った上で、改めて脳神経外科を専攻させていただけることとなりました。脳神経外科医が抱える責任はとても大きく、それだけに結果が厳しいこともあれば、乗り越えたときに得られる達成感もとても大きいです。このやりがいを、一度離れたおかげで改めて感じることができました。脳神経外科の名に恥じない自分になるために、今頑張ることができています。

信州大学脳神経外科の先生方に改めて迎え入れていただき、温かいご指導をいただいております。そのおかげがありまして、2020年に脳神経外科専門医を取得することができました。今現在、入局当初と比較してもより多くの手術に参加することができており、日々研鑽を積み重ねていただいております。これからは、手術や論文など、自分で成し遂げられることを増やし、その先は後進を指導できるような人物になること、これらを目指して日々精進していきます。脳神経外科に興味のある医学生、研修医の皆さん、是非一緒に脳神経外科医療に貢献していきましょう。

（秋田大平26年卒）